



# 総合教育センターだより

## BE Connected



センターマスコット センタ君

平成23年10月17日（月）  
第31号（通算第114号）  
京都府総合教育センター  
TEL: 075-612-3266

### 大盛況!

## 親子おもしろ科学実験教室

9月10日（土）京都府総合教育センター北部研修所において、「親子おもしろ科学実験教室」を実施しました。今年度は京都大学と共催で、同大学のブースを2つ企画しました。

参加者は213名（児童数113名、保護者数100名 85家族）でした（応募総数544名から抽選による参加）。内容は、「ステージショー」「ロボット実演」「ブース体験」の3部構成で行いました。

### ステージショー



液体窒素で冷やしたテニスボールやバラが、バラバラになると「ウワッ」と驚きの声が上がりました。巨大な空気砲から出た空気の塊が頭上を飛んでいくと、手を伸ばしながら興味津々で見っていました。



### ロボット実演



府立工業高等学校の生徒3名による「すもうロボット」の紹介と実演。

自走式のロボットがセンサーで相手や土俵際を感知して戦う様子に、まるで大相撲を観戦しているかのような歓声が上がっていました。

### ブース体験



実験やものづくり体験ができる7つのブースを用意しました。

「化石のレプリカづくり」を京都大学総合博物館、「海の生き物展示」を京都大学舞鶴水産実験所、「火おこし体験」を府立丹後郷土資料館、「プラネタリウム」を綾部市天文館パオにご協力いただきました。

各ブースの運営には、府内の小学校、高等学校の12名の先生方、そして西舞鶴高校、綾部高校、福知山高校の生徒17名の方にボランティアとしてご協力いただきました。協力員の先生には、専門性を生かしていただきながら、ブースの充実、効果的な運営をお願いしました。



### ご感想募集集中!



### 受けてみたいな、こんな講座

教職員の学びの意欲の向上を目的として、平成24年度実施分の「受けてみたいな、こんな講座」を募集しています。

今年度は小学校の先生からいただいた案をもとに、8月24日に「雲を見て、空から学ぶ気象学講座」を実施しました。

ぜひ、興味あるアイデアをお寄せください。

【応募締め切り】11月25日(金)

【発表】12月中旬

※詳しい内容については、センターHPに掲載していますのでご覧ください。

### 高校生もボランティアで活躍

ボランティアで参加した高校生は、小学生に分かりやすく実験の説明をしたり、丁寧に体験の補助をしたりしてくれました。会場をあとにする多くの家族から「今日は楽しかったね」という声が聞かれました。







# 平成23年度4月～9月の教育相談実施状況から



総合教育センターでは、電話・メール・来所・巡回の4つの方法で教育相談を実施しています。本年度4月～9月の期間中、電話相談では1600件以上、メール相談では250通以上の相談が寄せられました。

来所相談では伏見区のセンター、綾部市の北部研修所のそれぞれで専門のカウンセラーや精神科医が約800件の相談に応じました。巡回相談では各教育局等へ臨床心理士等が月一回程度訪問し、約100件の教育相談を行いました。

相談状況から、友だちとの距離感の持ち方の難しさや、経済力の低下を原因とする家庭基盤の脆弱化等により、子どもも保護者も様々な不安にさらされる中で問題が生じていることが窺えます。

## 不登校の相談が大半を占めています

相談件数の大半を不登校に関する相談が占めています。

不登校の背後に、いじめ、虐待、家庭環境の不安定さなどが多く見られました。

不登校の小学生では、場面緘黙、チック、抜毛といった身体症状に出してしまう事例が増加しました。また、中・高生では、家庭内暴力、リストカット、摂食障害、自殺念慮（自殺しようと思ひ巡らすこと）が関係する重篤な例も見られました。

文部科学省の最新の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によると、平成22年度の小中学校における不登校児童生徒数は約11万5千人（前年度約12万5千人）で、小中学校においては若干減少しました。また、高等学校における不登校生徒数は約5万3千人（前年度約5万2千人）で、不登校生徒の割合は、全体の1.66%（前年度1.55%）でした。

## 問題の背景～相談から見えてくること～

### ① 友達関係

☆親密な友達に過剰に気を遣い、いったん作った友達関係を保つための努力に疲れ果てています。友達のささいな言動が気になり、友達から離れて一人になるのは「誰からも友達として選ばれていない」ように思ってしまい、一人でいることに恐怖を感じて悩むことが多いようです。



☆学級や学校を越えたネット等での友達関係が広がる一方で、現実世界にある学級の絆が弱くなっています。たとえ学級の中でも、ほとんど口をきかない人がいるといった現象が生じています。

### ② 親子関係

☆子育てに悩む母親からの相談だけでなく家庭環境のつらさを訴える子どもからの相談も多数寄せられました。



☆小学生をもつ母親からは「子育てのストレスや不安」、「非協力的な夫への不満」が多く寄せられました。また、中学生をもつ母親からは「反抗期への対応」、「思春期の娘との向き合い方」等の相談が多く寄せられました。

### 学校での対応のポイント



○不登校という形で問題が表面化することが多いですが、問題の背後に隠された「本当の訴え」を十分に聴き取り理解しようとする姿勢が大切です。

○直接足を運び、会って話すという直接的な関わりに努めることが大切です。

○保護者の不安の理解に努めるとともに、ケースによっては教育センターや医療機関等の専門機関との連携を図るなど、組織的な対応を図ることも大切です。

○常に子どもの人間関係の変化にアンテナを向けておく必要があります。

～メンタルヘルスひとロメモ～ 肉体的ストレスが精神的ストレスを増強させることがあります。連続して長時間働いた場合、休みながら働いた人より疲れがとれにくくなる傾向があることがわかっています。同じ時間働くのでも、根を詰めすぎず、適度な休息をとりながら仕事をする方が能率もよく、疲れ方も軽くなります。

ストレスに対処しにくいときは、総合教育センター教育相談部(申込先：mental@kyoto-be.ne.jp)や、「教職員健康相談24」でも相談できます。

